

令和3年度 活動報告

調査研究推進部門

1. はじめに

防災に関する教育・研究や行政等の取り組みについて、本センターに関わる教職員および関係機関の情報交換や交流を目的に平成25年度から「鹿大防災セミナー」を実施している。令和3年度（第30回～第33回）の概要を報告する。

2. 鹿大防災セミナー開催報告

第30回（オンライン開催）

開催日時：令和3年6月8日（火）16:30～17:50

講演：

「鹿児島市の児童発達支援・放課後等デイサービス施設における災害への取り組みの現状と今後求められるもの」

医歯学域医学系 助教 日隈利香

「桜島から噴出する火山灰を構成する斜長石の構造状態に関する研究—火山防災上の意義と今後の課題—」

法文教育学域教育学系 教授 松井智彰

概要：本学の教職員および学生、鹿児島地方気象台など学外の方々を含め、44名の参加があった。日隈利香助教は、鹿児島市の児童発達支援・放課後等デイサービス施設における災害への取り組みは現時点では不十分であるため、今後同市が主体となった災害対策に関する取り組みと支援の拡充が望まれることなどを報告した。松井智彰教授は、斜長石などの火山灰構成鉱物の構造状態を従来の火山観測手法によるデータと比較・照合することで、火山活動の監視に新たな視点を提供することなどを報告した。

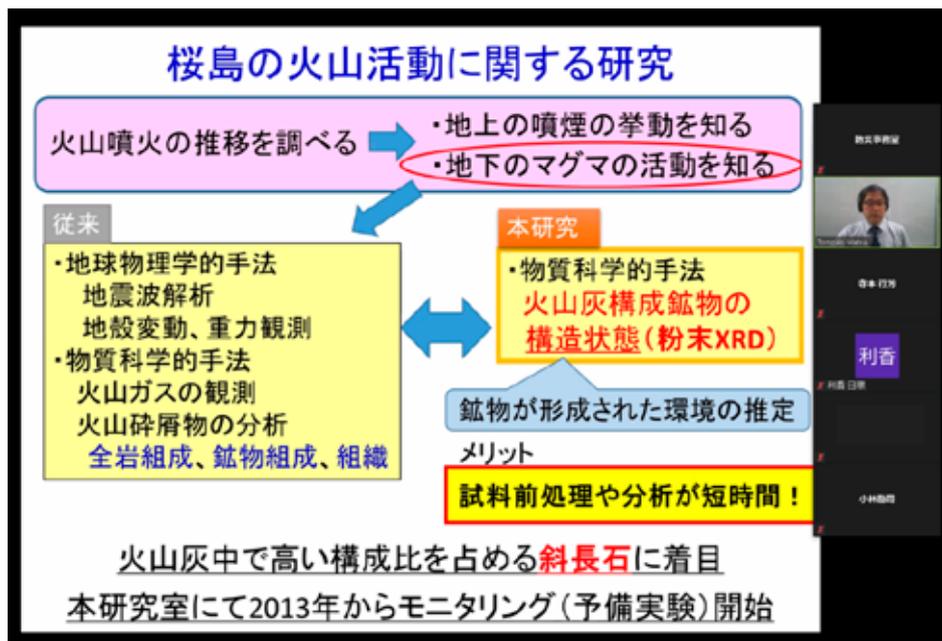


写真1 第30回鹿大防災セミナー講演の様子（松井氏）

第31回（オンライン開催）

開催日時：令和3年8月31日（火）16:30～17:50

テーマ：火山災害に関する防災リテラシー向上のための教材の開発

講演：

「桜島火山版避難所運営ゲーム（HUG）開発について」

医歯学域医学系 教授 松成裕子

「GISを活用した桜島噴火による降灰を対象とした防災教材の作成」

地震火山地域防災センター特任研究員 中谷剛

概要：本学の教職員および学生、福岡管区気象台など学外の方々を含め、59名の参加があった。松成裕子教授は、HUG開発の経緯や現在の活動状況について報告するとともに、最終目標の「地域で暮らす住民の火山災害に関する防災リテラシーの向上」に向けての教材の改善や、普及のためのファシリテーターの必要が説明された。中谷剛特任研究員は、火山災害の特徴やハザードとリスクの違い、これらを見える化のためのGISを活用した教材開発の現状などについて報告した。



写真2 第31回鹿大防災セミナー講演の様子（左：松成氏、右：中谷氏）

第32回（オンライン開催）

開催日時：令和3年11月29日（月）16:30～17:50

講演：

「自然災害を想定した文化財保全オンラインワークショップの試み」

法文教育学域教育学系 准教授 佐藤宏之

「近年の豪雨に伴ういくつかの事象と関連する研究の取り組みについて」

理工学域工学系 准教授 齋田倫範

概要：本学の教職員および学生、福岡管区気象台など学外の方々を含め56名の参加があった。佐藤宏之准教授は自然災害の発生を想定し、どのように文化財保全をしていくかを検討するためのワークショップをオンラインで実施することの利点や具体的な実施例について報告した。齋田倫範准教授は、近年の豪雨に伴う川内川における河川水位の上昇率の特徴や肝属川における内水氾濫解析例などについて報告した。



写真3 第32回鹿大防災セミナー講演の様子（左：佐藤氏、右：齋田氏）

第 33 回（オンラインでの開催を予定）

開催日時：令和 4 年 3 月 15 日（火）16:30～17:50

講演：

「沖永良部島における侵食にともなう農地災害防止に関する基礎的研究」

農水産獣医学域農学系 准教授 肥山浩樹

「機械学習による斜面崩壊予測に関する研究」

理工学域工学系 助教 伊藤真一